

放射線治療科

診療科の概要

放射線治療科は悪性腫瘍を中心に様々な疾患に対し放射線治療を専門的に行う科です。放射線治療は悪性腫瘍の3大治療法のひとつであり手術、化学療法と並び悪性腫瘍の治療になくてはならないものです。

放射線治療には機能と形態の温存が可能な癌局所治療法であるという大きな特徴があります。更には近年のコンピュータ技術の発達によって、放射線治療は正常組織の被ばく線量をさらに減少させて、正確に照射する技術が発達しています。癌患者の半数が救命できるようになった現在、命を長らえるだけでなく社会復帰の可能なQOLの高い治療法への社会的要請が強まってきております。放射線治療はまさに時代の要求する癌治療法です。

研修内容と特徴

放射線治療には手術と比較すると形態・機能が温存できるという特徴があり、化学療法と比較すると高齢者や合併症を有する患者にも適応できるという特徴があります。欧米においては新規がん患者の約60%に放射線治療が施行されており、放射線治療はがん治療の3本柱の1つとして確固たる地位を占めています。日本では放射線治療を受けられる患者さんの割合は欧米ほど高くはありませんが、今後は欧米並みに増加することが見込まれています。

当科では毎年約900人以上の患者さんに放射線治療を行っています。対象臓器・疾患も多岐にわたっておりますので、一般的な放射線治療の経験を十分に積むことができます。

先端的な治療に関しては、当科は世界に先駆ける形で1989年より頭蓋内病変と頭頸部病変への定位放射線照射法を開発し研究してきました。1999年からは肝・肺などの呼吸性移動のある臓器の疾患に対して体内に埋め込んだマーカーを追跡し、マーカーが決められた位置に来たときのみ照射する“動体追跡照射(Real-time Tumor-tracking Radiotherapy: RTRT)”を行っています。RTRTを用いた体幹部定位放射線治療(Stereotactic Body Radiotherapy: SBRT)の症例数も豊富です。また強度変調放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy: IMRT)も国内に先駆けて臨床現場で使ってきました。2014年からは動体追跡陽子線治療(Real-time-image Gated Proton Therapy: RGPT)も開始し、強度変調陽子線治療(Intensity Modulated Proton Beam Therapy: IMPT)も行っていきます。以上のような最先端の放射線治療も研修できます。

当科での研修は、原則として3・4年目の研修は大学病院で行います。指導医の下で積極的に診療を行い、学会発表や論文執筆の基礎的事項を習得していただきます。同時期に放射線診断科(neuro・body・IVR)・核医学診療科をローテートして放射線治療学に必要な画像診断・IVRの知識・基礎的手技の習得を目指します。これは、画像誘導放射線治療(Image-guided Radiotherapy: IGRT)が普及し放射線治療学において画像診断の知識がますます必要になってきていることに対応するものです。次の5・6年目は大学病院或いは関連教育病院で放射線治療の症例経験を蓄積し研修を行います。放射線治療専門医取得に向けた研鑽を重ねる時期ですが、臨床領域での研究の基本を学ぶ良い機会でもあります。また大学院進学希望者に関してはローテーション終了後の5年目を推奨しておりますが、希望の時期で進学する事が可能です。

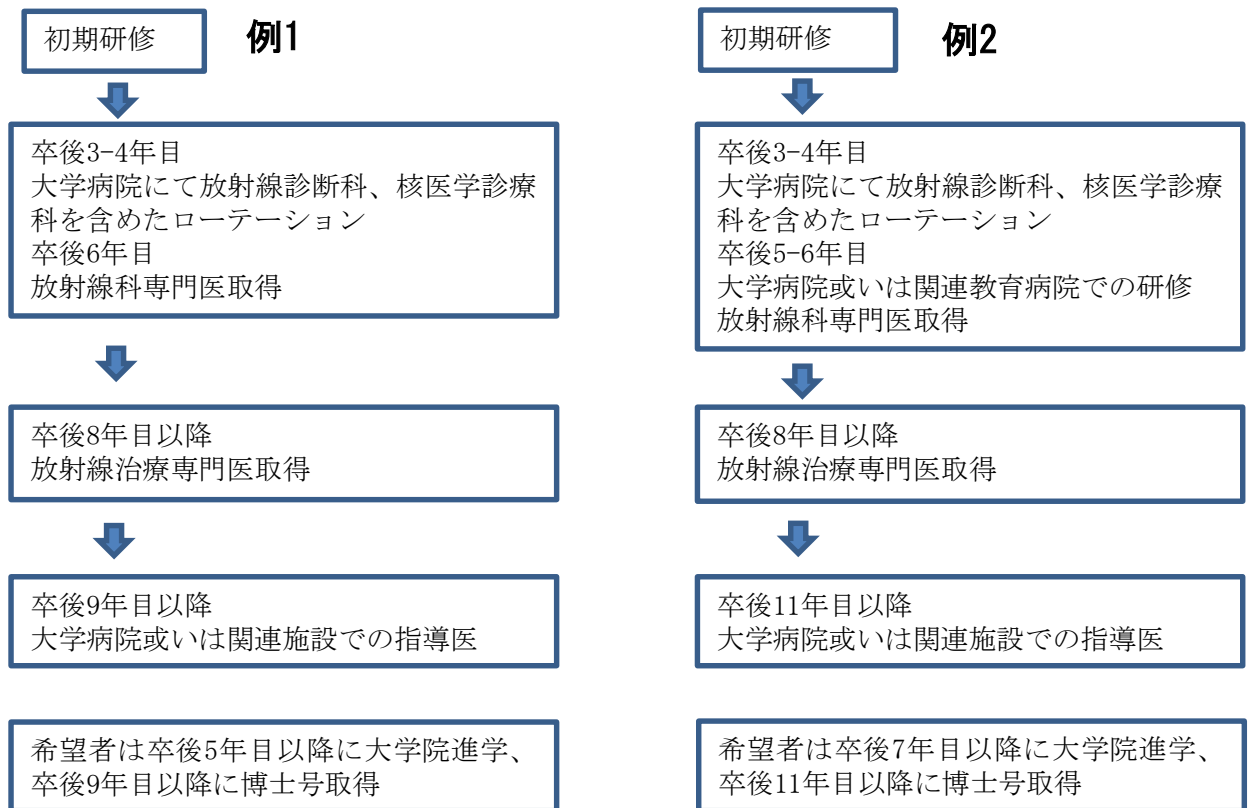
取得できる専門医・認定医

日本医学放射線学会放射線科専門医
日本医学放射線学会放射線治療専門医
がん治療認定医

教育研修施設

北海道がんセンター 函館市立病院 苫小牧王子総合病院 北見赤十字病院 札幌厚生病院 帯広厚生病院 旭川厚生病院 市立旭川病院 釧路労災病院 恵佑会札幌病院 日鋼記念病院 NTT東日本札幌病院 小樽市立病院 砂川市立病院

研修プログラム(フローチャート)



科長からのメッセージ

“目に見えない光で病気を治す”という呪術的に聞こえますが、がんが放射線で消えて、その場所がもとの正常の形にもどる過程は本当に不思議です。しかも自分が治した患者さんに10~20年後に町でばったり再会した際などは、治療する医師としての人生のすばらしさに感動します。驚異的な技術進歩と、日本人のがんの種類が欧米化しているため、放射線治療医の需要は驚異的に伸び、現在日本が最も足りていない医師職のひとつとなっております。そんな中、地に足をつけた研修と世界最先端の放射線治療の開発研究を同時に体験できる北海道大学病院放射線治療科は、国内外で最高の研修施設としてお勧めできます。たとえば、我々が開発した動体追跡X線治療を取り入れた世界初の陽子線治療装置が本大学病院で稼働しています。いままで治らなかった患者さんを治すために、あと必要なのは、みなさんの情熱です。心から、皆さまをお待ちしております。

連絡先情報

直通電話 : 011-706-5977
内線 : 5977 (医学研究科)
研修担当者 : 橋本 孝之
email : thashimoto@med.hokudai.ac.jp
URL : <http://rad.med.hokudai.ac.jp/>